

201124013A

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV検査相談体制の充実と 活用に関する研究

平成 23年度研究報告書

研究代表者

加 藤 真 吾

(慶應義塾大学医学部 微生物学・免疫学教室)

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究

平成 23 年度 研究報告書

研究代表者

加 藤 真 吾

(慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室)

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(研究代表者・研究分担者) 平成23年度

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
加藤 真吾	慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室	専任講師	160-8582	新宿区信濃町35	03-3353-1211 (61230)	03-5361-7658	skato@sc.itc.keio.ac.jp
井戸田 一朗	しらかば診療所	院長	162-0065	東京都新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2F	03-5919-3127	03-5919-3137	itoda@shirakaba-clinic.jp
今井 光信	田園調布学園大学 人間福祉学部	教授	215-8542	神奈川県川崎市 麻生区東百合丘3-4-1	044-966-6800	044-955-4345	imaim@d2.dion.ne.jp
上木 隆人	東京都南新宿検査・相談室	室長	151-0053	渋谷区代々木2-7-8 東京南新宿ビルディング3F	03-3377-8122	03-3377-0821	hiv-test@aurora.ocn.ne.jp
川畑 拓也	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課	主任研究員	537-0025	大阪市東成区中道1-3-69	06-6972-1321 (375)	06-6972-2393	kawahata@iph.pref.osaka.jp
木村 和子	金沢大学医薬保健研究域薬学系 国際保健薬学研究室	教授	920-1192	金沢市角間町 自然科学本館	076-234-4402	076-234-4402	kimurak@p.kanazawa-u.ac.jp
小島 弘敬	東京都南新宿検査・相談室	室長	151-0053	渋谷区代々木2-7-8 東京南新宿ビルディング3F	03-3377-8122	03-3377-0821	hiv-test@aurora.ocn.ne.jp
近藤真規子	神奈川県衛生研究所 微生物部	主任研究員	253-0087	茅ヶ崎市下町屋1-3-1	0467-83-4400	0467-83-4457	kondo.dvqy@pref.kanagawa.jp
貞升 健志	東京都健康安全研究センター 微生物部	専門副参事	169-0073	新宿区百人町3-24-1	03-3363-3231	03-3363-3263	Kenji_Sadamasu@member.metro.tokyo.jp
佐野 貴子	神奈川県衛生研究所 微生物部	主任研究員	253-0087	茅ヶ崎市下町屋1-3-1	0467-83-4400	0467-83-4457	takawoo@hotmail.com
杉浦 亙	(独)国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター	部長	461-0001	名古屋市中区三の丸4-1-1	052-952-1111	052-951-0664	wsugiura@nih.go.jp
武部 豊	国立感染症研究所 エイズ研究センター第2室	室長	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111 (2537)	03-5285-1258	takebe@nih.go.jp
玉城 英彦	北海道大学大学院医学研究科 国際保健医学分野	教授	060-8638	札幌市北区北15条西7丁目	011-706-5051	011-706-7374	tamashiro@med.hokudai.ac.jp
中瀬 克己	岡山市保健所	所長	700-8546	岡山市鹿田町1-1-1	086-803-1262	086-803-1758	katsumi_nakase@city.okayama.okayama.jp
長野 秀樹	北海道立衛生研究所	主任研究員	060-0819	札幌市北区北19条西12丁目	011-747-2764	011-736-9476	nagano@iph.pref.hokkaido.jp
日野 学	日本赤十字社 血液事業本部	副本部長	135-8521	江東区辰巳2-1-67	03-5534-7503	03-5534-3774	s-hino@bs.jrc.or.jp
前田 憲昭	医療法人社団皓歯会	理事長	530-0017	大阪市北区角田町8-47 阪急グランドビル22階	06-6315-7500	06-6315-1930	koshikai@silver.ocn.ne.jp
矢永由里子	慶應義塾大学 医学部 感染制御センター	特任助教	160-8582	新宿区信濃町35	03-3353-1211		yanaga@ar.em-net.ne.jp

HIV検査相談体制研究班事務局 <慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室>

〒160-8582 新宿区信濃町35 TEL: 03-3353-1211 FAX: 03-5361-7658

事務担当(内線61230): 平山由香利 (kensahan@m10.alpha-net.ne.jp) / 経理担当(内線64021): 光永明弘

研究担当(内線61230): 須藤弘二 (phai@mail7.alpha-net.ne.jp)、親泊あいみ

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(地方衛生研究所)平成23年度

班員名	所属	職名	電話(内線)	FAX	所属	研究担当者	Eメール
長野 秀樹	北海道立衛生研究所	主幹	011-747-2764	011-747-2757	感染症部 ウイルスグループ	三好正浩 駒込理佳	nagano@iph.pref.hokkaido.jp
管野富士雄	仙台市衛生研究所	所長	022-236-7722	022-236-8601	微生物課	勝見正道	fuk005620@city.sendai.jp
原 孝	茨城県衛生研究所	部長	029-241-6652	029-243-9550	ウイルス部	増子京子	t.hara@pref.ibaraki.lg.jp
涌井 拓	千葉県衛生研究所	研究員	043-266-6725	043-265-5544	ウイルス研究室	福嶋得忍	twakui@nih.go.jp
内田 和江	埼玉県衛生研究所	専門研究員	048-853-4995	048-840-1041	ウイルス担当	篠原美千代 島田慎一	uchida.kazue@pref.saitama.lg.jp
貞升 健志	東京都健康安全研究センター 微生物部	病原細菌 研究科長	03-3363-3231 (3201)	03-3363-3263	微生物部 ウイルス研究科	長島真美	Kenji_Sadamasu@member.metro.tokyo.jp
近藤真規子	神奈川県衛生研究所	主任研究員	0467-83-4400	0467-83-4457	微生物部	佐野貴子	kondo.dvqy@pref.kanagawa.jp
宇宿 秀三	横浜市衛生研究所	専門研究員	045-754-9800	045-754-2210	検査研究課	折井まさ江	sh00-usuku@city.yokohama.jp
飯塚 郁夫	川崎市衛生研究所	技術職員	044-244-5481	044-246-2606	微生物担当	清水英明	35eiken@city.kawasaki.jp
村松克彦	山梨県衛生環境研究所	所長	055-253-6721	055-253-5637	微生物部	大沼正行 三橋加世子	oonuma-zsh@pref.yamanashi.lg.jp
皆川 洋子	愛知県衛生研究所	所長	052-910-5604	052-913-3641	生物学部 ウイルス研究室	小林慎一 藤原範子	hiroko_minagawa@pref.aichi.lg.jp eiseiken@pref.aichi.lg.jp
川畑 拓也	大阪府立公衆衛生研究所 感染症部ウイルス課	主任研究員	06-6972-1321 (376)	06-6972-2393	感染症部 ウイルス課	森 治代 小島洋子	kawahata@iph.pref.osaka.jp
近平 雅嗣	兵庫県立健康生活科学研究所 健康科学研究センター	感染症部長	078-511-6804	078-531-7080	感染症部	高井伝仕	Denshi_Takai01@pref.hyogo.lg.jp Masatsugu_Chikahira@pref.hyogo.lg.jp
伊藤 文明	広島市衛生研究所	専門員	082-277-6998	082-277-0410	生物科学部	阿部勝彦	ei-seibutsu@city.hiroshima.jp
山下 育孝	愛媛県立衛生環境研究所	ウイルス科長	089-931-8757	089-947-1262	微生物試験室	青木里美	yamashita-yasutaka@pref.ehime.jp
千々和勝己	福岡県保健環境研究所	保健科学部長	092-921-9940	092-928-1203	ウイルス課	世良暢之 石橋哲也 吉富秀亮 前田詠里子	chijiwa@fihes.pref.fukuoka.jp

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(特別協力研究者) 平成23年度

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
高山 義浩	佐久総合病院総合診療科 厚生労働省健康局結核感染症課	医師	384-0301	長野県佐久市臼田197	0267-82-3131	0267-82-2992	hiro-t@umin.net
小池 宙	佐久総合病院 総合診療科	医師	384-0301	長野県佐久市臼田197	0267-82-3131	0267-82-2992	koike-h@umin.ac.jp
百瀬 俊也	日本赤十字社 血液事業本部	安全管理課長	135-8521	江東区辰巳2-1-67	03-5534-7503	03-5534-3774	momose@bsjrc.or.jp
本間 隆之	山梨県立大学 看護学部	講師	400-0062	山梨県甲府市池田1-6-1	055-253-7780	055-253-7781	
相楽 裕子	横浜市立市民病院 感染症内科	非常勤	240-8555	横浜市保土ヶ谷区岡沢町56	045-331-1961	045-331-1960	hsagara@msf.biglobe.ne.jp
岩室 紳也	(社)地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター	センター長	102-0093	千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15F	03-5210-2921	03-5210-2924	shin.iwamuro@nifty.ne.jp
伊藤 章	国際医療福祉大学病院 臨床検査部	教授	329-2763	栃木県那須塩原市井口537-3	0287-39-3060	0287-39-3001	aito@iuhw.ac.jp
大林 民典	東京都立駒込病院 臨床検査科	部長	113-8677	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	03-5814-3366	tami@cick.jp
小泉 京子	江戸川区 健康部 健康サービス課 なぎさ健康サポートセンター	保健師	134-0085	江戸川区南葛西7-1-27	03-5675-2515	03-5675-2519	kyouko-koizumi@city.edogawa.tokyo.jp
清水 茂徳	ライフ・エイズ・プロジェクト	代表	100-8691	東京中央郵便局私書箱490号	03-5685-9716	03-5685-9703	shimizu8691@lap.jp
草田 央	ライフ・エイズ・プロジェクト	スタッフ	100-8691	東京中央郵便局私書箱490号	03-5685-9716	03-5685-9703	aids@t3.rim.or.jp
堀 成美	東京都立駒込病院 感染症科 国立感染症研究所FETP 聖路加看護大学	研究員	162-8640	新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所	03-5285-1111	03-5285-1233	hnarumi@nih.go.jp
右田麻里子	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター	栄サンサンサイト 事務局代表	466-0833	名古屋市昭和区隼人町7-16 セントカーサ50-B	052-831-2290	052-831-2268	chubu@npo-jhc.com
狩野 千草	新宿区牛込保健センター	保健師	162-6231	新宿区弁天町50番地	03-3260-6231	03-3260-6223	chigusa.kano@city.shinjuku.tokyo.jp
川添 昌之	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター	理事 なんばサンサンサ イト事務局責任者	651-0088	神戸市中央区小野柄通6-1-22 プチメゾン小川 201号	078-222-3001	078-222-3001	osaka-vct@npo-jhc.com
高田知恵子	秋田大学教育文化学部心理学研究室	教授	010-8502	秋田市手形学園町1-1	018-889-2537	018-889-2537	takata@ed.akita-u.ac.jp
塚田 三夫	栃木県県北健康福祉センター 地域保健部	部長	320-8501	栃木県大田原市住吉町2-14-9	0287-22-2257	0287-23-6980	tsukadam01@pref.tochigi.lg.jp

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
一色 ミュキ	栃木県県東健康福祉センター 健康対策課	課長	321-4305	栃木県真岡市荒町2-15-10	0285-82-3323	0285-83-7003	isshikim01@pref.tochigi.lg.jp
松浦 基夫	特定非営利活動法人 CHARM	理事	530-0031	大阪市北区菅栄町10-19	06-6354-5901	06-6354-5902	office@charmjapan.com matsuura-m@sakai-hospital.jp
岳中 美江	特定非営利活動法人 CHARM エイズ予防財団	理事 流動研究員	530-0031	大阪市北区菅栄町10-19	06-6354-5901	06-6354-5902	office@charmjapan.com
辻 麻理子	国立病院機構九州医療センター 感染症対策室	臨床心理士	810-8563	福岡市中央区地行浜1-8-1	092-852-0700	092-847-8801	cptsujimari@kyumed.jp
星野 慎二	かながわレインボーセンターSHIP (横浜Cruiseネットワーク)	代表	221-0834	横浜市神奈川区台町14-2 ピア台町2F	045-306-6769	045-306-6769	shinji@y-cru.com
市川 誠一	名古屋市立大学大学院看護学研究科	教授	467-8601	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	052-853-8089	052-852-4641	yaichisei@yahoo.co.jp
浦尾 充子	千葉大学附属病院カウンセリング室	カウンセラー	260-0856	千葉市中央区亥鼻1-8-1	043-226-2383	043-226-2295	urao@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
鬼塚 直樹	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 エイズ予防研究センター	専門官	94105	50 Beale Street, Suite 1200, San Francisco, CA USA	415-597-9375	415-597-8299	nonizuka@webjapan.us
橋 とも子	国立保健医療科学院 研究情報センター	情報デザイン室長 (兼)研究情報セン ター図書館サービス	351-0197	埼玉県和光市南2-3-6	048-458-6206	048-469-0326	ttomoko@niph.go.jp
澤畑 一樹	(株)三菱化学メディエンス 学術部	主事	174-8555	板橋区志村3丁目30番1号	03-5994-2196	03-5994-2931	sawahata-o@mui.biglobe.ne.jp
榎 佐和子	(株)エスアールエル 感染免疫部	部長	192-8535	八王子市小宮町51	0426-28-4083	0426-48-4041	enoki@srl.srl-inc.co.jp
生島 嗣	特定非営利活動法人 ぶれいす東京	専任相談員	169-0075	東京都新宿区高田馬場 4-11-5 三幸ハイツ403	03-3361-8964	03-3361-8835	ikushima@ptokyo.com
井上 洋士	放送大学 生活と福祉	教授	261-8586	千葉市美浜区若葉2丁目11番地	043-276-5111	043-298-4153	yinoue@ouj.ac.jp
大木 幸子	杏林大学保健学部看護学科 地域看護学研究室	教授	181-8611	三鷹市新川6-20-2 看護・医学教育研究棟7階717号室	0422-47-5511	0422-47-5511	oki-s@ks.kyorin-u.ac.jp

厚生労働科学研究費補助金 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班 班員名簿(特別研究協力者) 平成23年度

HIV即日検査協カクリニック

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
赤枝 恒雄	赤枝六本木診療所	院長	106-0046	港区元麻布3-1-30	03-3405-1388	03-3403-4680	akaeda@akaeda.com
新井 律夫	新井医院	院長	330-0062	さいたま市浦和区仲町 2-15-12	048-822-2030	048-822-8457	
井戸田一朗	しらかば診療所	院長	162-0065	新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2F	03-5919-3127	03-5919-3137	itoda@shirakaba-clinic.jp
岩澤 晶彦	岩澤クリニック	院長	060-0061	札幌市中央区南1条西16丁目 レーベンビル2F	011-613-6000	011-613-3000	iwasawa@mb.snowman.ne.jp
上村 哲	上村病院	院長	904-0021	沖縄市胡屋1-6-2	098-938-1035	098-939-4206	uemurasatoshi40@gmail.com
江畑 貴文	文化村通りクリニック	院長	150-0043	渋谷区道玄坂2-25-10 小田原屋ビル4F	03-5459-4070	03-3780-7702	info@bunkamura.org
大里 和久	大里クリニック	院長	563-0027	池田市上池田1-8-13	072-753-2553	072-753-2553	docosato@hotmail.com
大原 宏樹	新宿山の手クリニック	院長	160-0021	新宿区歌舞伎町2-45-1 第5ライデンビル5F	0120-156-119	03-5291-1578	info@y-cn.jp
尾関 全彦	尾関皮膚泌尿器科	院長	135-0048	江東区門前仲町2-6-2 幸栄ビル3F	03-3630-1241	03-3630-1241	
小田島 純	新吉原診療所	院長	111-0031	台東区千束3-27-11	03-6802-3767	03-6802-3768	luehdorfia@aol.com
尾上 泰彦	宮本町中央診療所	院長	210-0004	川崎市川崎区宮本町4-1	044-211-6581	044-211-1972	onoye@dd.ij4u.or.jp
上村 茂仁	ウィメンズクリニック・かみむら	院長	700-0901	岡山市北区本町4-18 コア本町ビル3F	086-803-5338	086-803-5339	RXND4713@nifty.com
川嶋 敏文	川嶋泌尿器・皮膚科医院	院長	231-0024	横浜市中区吉浜町2-4 アクシス(Axis)元町 2F	045-662-1971	045-662-1974	dr.toshitoshi@triton.ocn.ne.jp
清滝 修二	セントラルクリニック伊勢崎	院長	372-0023	群馬県伊勢崎市粕川町1050-1	0270-30-8113	0270-30-8116	isesakiyo@iris.ocn.ne.jp
小林 米幸	小林国際クリニック	院長	242-0005	大和市西鶴間3-5-6-110	046-263-1380	046-263-0919	uii37324@nifty.com
斎藤 敏典	クリニック斎藤泌尿器科	院長	983-0824	仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-20-17	022-251-0170	022-251-0171	drs@f4.dion.ne.jp
鷺山 和幸	さぎやま泌尿器クリニック	院長	810-0001	福岡市中央区天神1丁目3-38 天神121ビル3F	092-720-3077	092-720-3078	uro@sagiyama.net

班員名	所属	職名	〒	住所	電話(内線)	FAX	Eメール
白川 裕一	八重洲山の手クリニック	院長	103-0027	中央区日本橋3-4-12 フロンティア八重洲ビル4F	0120-156-119	03-5205-3688	yaesu@y-cn.jp
高橋 雅弘	薬院高橋皮ふ科クリニック	院長	810-0022	福岡市中央区薬院1-5-11 薬院ヒルズビル2階	092-737-1881	092-737-2124	yakuin-clinic@momotaro-net.com
立山 啓悦	ひろクリニック	院長	150-0043	渋谷区道玄坂2-28-3 クラトスビル4F	03-5458-1860	03-5458-1860	hiro196779@yahoo.co.jp
谷口 恭	太融寺町谷口医院	院長	530-0051	大阪市北区太融寺町4-20 すてらめいとビル4F	06-4792-7877	06-6364-4188	cyc02414@nifty.com
多和田俊保	たわだ泌尿器科	院長	460-0011	名古屋市中区大須3丁目14-43 大須第2アメ横ビル3F	052-238-3555	052-238-3536	urotawada35@lime.ocn.ne.jp
中村 幸生	中村クリニック	院長	553-0003	大阪市福島区福島7-6-23-303 日の出ビル	06-6455-8755	06-6455-8755	email@nyukio.chicappa.jp
西大條文一	同仁斎クリニック	院長	186-0011	国立市谷保4111-1-2F	042-573-9995	042-576-2195	info@dojinsai.com
西原 仁	関内マリンクリニック	院長	231-0017	横浜市中区港町2-9-4 関内幸和ビル9F	045-222-6162	045-222-6225	info@kannai-marine.com
根岸 昌功	ねぎし内科診療所	院長	160-0004	新宿区四谷3-9 光明堂ビル5F	03-5369-2041	03-5359-2041	mneg2885@ever.ocn.ne.jp
古林 敬一	そねざき古林診療所	院長	530-0057	大阪市北区曽根崎2-5-24 石見ビル3F	06-6312-8423	06-6355-4822	k.furubayashi@sonezaki-fc.jp
保科 真二	保科医院	院長	604-8032	京都市中京区西木屋町六角 下ガル山崎町258	075-221-4775	075-221-4787	info@hoshina-iin.com
操 裕	操健康クリニック	医師	500-8384	岐阜市藪田南1-4-20	058-274-0330	058-273-4880	yumisao@docmisao.jp
山口 眞澄	池袋山の手クリニック	院長	170-0013	豊島区東池袋1-32-2 小川ビル4F	0120-156-119	03-3986-2977	ikebukuro@y-cn.jp
山中 晃	新宿東口クリニック	院長	160-0022	新宿区新宿3-17-5 カワセビル7F	03-5366-3389	03-5366-3398	kouy@ff.ijj4u.or.jp
安田 晶子	吉尾医院	院長	064-0808	札幌市中央区南8条西3丁目1-7	011-511-5564	011-513-1782	teruko-yasuda@hokkaido.med.or.jp

平成 23 年度 研究 報告 書

目 次

I. 総括研究報告

HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究	1
------------------------------	---

— 総括研究報告 (平成 23 年度) —

加藤 真吾 (慶應義塾大学)

II. 分担研究報告

1. HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査 (H23 年)	19
---	----

今井 光信 他 (田園調布学園大学)

2. 検査相談 研修ガイドラインの作成と普及について

ガイドラインの検証と講師用実施マニュアルの作成について	52
-----------------------------------	----

矢永 由里子 他 (慶應義塾大学)

3. 民間クリニックにおける HIV 検査相談機会を充実させるための研究	59
--	----

井戸田 一朗 (しらかば診療所)

4. 南新宿検査・相談室の HIV 陽性者減少傾向と MSM の行動変容	61
--	----

小島 弘敬 (東京都南新宿検査・相談室)

5. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (2011 年)	65
---	----

須藤 弘二 他 (慶應義塾大学)

6. インターネットで入手できるだ液と尿を献体とする HIV 自己検査キットの問題点 74

木村 和子 他 (金沢大学大学院)

7. 我が国および近隣諸国における HIV 分子疫学に対応する検査相談に関する研究
HIV 検査相談体制の充実拡充に資する最新の疫学・分子疫学情報の提供と
その分析(中国における HIV 流行の新規動向に関して) 111

武部 豊 (国立感染症研究所)

8. ホームページ「HIV 検査・相談マップ」による HIV 検査相談機関の情報提供および
サイト利用状況解析 119

佐野(嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)

9. 民間クリニックへの HIV 即日検査の導入支援および実施状況解析 130

佐野(嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)

10. HIV 迅速検査試薬の検討および即日検査への応用 139

佐野(嶋) 貴子 他 (神奈川県衛生研究所)

11. HIV 検査に関する知識・態度・行動に関する研究—大学生を対象として— 147

玉城 英彦 他 (北海道大学大学院)

12. 献血者への働きかけにより感染リスク行動のある献血者を HIV 検査相談機会に
繋げるための研究(平成 23 年度) 154

日野 学 他 (日本赤十字社)

13. 歯科受診者に対する検査相談機会の検討 160

前田 憲昭 他 (医療法人社団皓歯会)

14. パートナー健診の検討 163

中瀬 克己 他 (岡山市保健所)

15. 北海道における HIV 感染の現況と検査体制	182
長野 秀樹 他 (北海道立衛生研究所)	
16. 東京都の HIV 検査体制と 2011 年検査結果の解析	189
貞升 健志 他 (東京都健康安全研究センター)	
17. 大阪府内の公的 HIV 検査の現状と府保健所における即日検査導入の効果評価、 当所における HIV 陽性検体の解析、STI 関連診療所における疫学調査	196
川畑 拓也 他 (大阪府立公衆衛生研究所)	
18. 福岡県における HIV 検査について	207
千々和 勝己 他 (福岡県保健環境研究所)	
19. 汎用リアルタイム PCR 装置を用いた HIV-1RNA 定量法(KK-TaqMan)の 地方衛生研究所への技術支援及び KK-TaqMan 増幅領域における変異の モニタリングとサブタイプ解析	214
近藤 真規子 他 (神奈川県衛生研究所)	
20. 薬剤耐性変異の解析法の開発・改良・技術研修に関する研究: 薬剤耐性検査の実用化と衛生研究所等への技術移管	222
杉浦 互 他 (国立病院機構名古屋医療センター)	

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表	231
----------------------	-----

I . 総括研究報告

HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究

総括研究報告

研究代表者	加藤真吾	慶應義塾大学医学部
研究分担者	今井光信	田園調布大学人間福祉学部
	武部 豊	国立感染症研究所ウイルス部
	中瀬克己	岡山市保健所
	長野秀樹	北海道立衛生研究所
	貞升健志	東京都健康安全研究センター
	川畑拓也	大阪府立公衆衛生研究所
	小島弘敬	東京都南新宿検査・相談室
	上木隆人	東京都南新宿検査・相談室
	日野 学	日本赤十字社血液事業本部
	前田憲昭	医療法人社団皓歯会
	玉城英彦	北海道大学大学院医学研究科国際保健医学
	木村和子	金沢大学医薬保健研究域薬学系
	矢永由里子	慶應義塾大学医学部
	佐野貴子	神奈川県衛生研究所
	近藤真規子	神奈川県衛生研究所
	井戸田一朗	しらかば診療所
	杉浦 互	国立病院機構名古屋医療センター

研究要旨

本研究班は、HIV 検査相談体制を充実させ、その機会を活用することにより、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・まん延防止を図ることを目的に、(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究、(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究、(3) HIV 検査技術の向上に関する研究の3課題について研究を行った。

(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究

①保健所等における HIV 検査相談に関するアンケート調査

保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、その充実を図るため、全国の保健所等検査相談施設を対象にアンケート調査を実施した。

②各地域における HIV 検査相談体制の現状と課題

北海道、東京、大阪、福岡における HIV 検査相談体制を現状と課題を地方衛生研究所における検査結果と疫学データを基に分析した。

③東京都南新宿検査・相談室における HIV 検査相談の動向

東京都南新宿検査・相談室における陽性者数の動向と受検者の行動変容を調査した。

- ④HIV 検査相談の研修ガイドラインの作成と普及
検査相談担当者を支援するためにこれまで作成した研修ガイドラインの検証を行うとともに講師用実施マニュアルを作成した。
- ⑤民間クリニックにおける HIV 即日検査
民間クリニックにおける HIV 即日検査の導入支援と実施状況の調査を行った。
- ⑥HIV 自己検査キットの検討
インターネットで入手可能な、唾液と尿を検体とする HIV 自己検査キットの問題点を実物を入手して検討した。
- ⑦HIV 郵送検査の実態と検査精度に関する調査
郵送検査会社に対し取扱状況や検査実施状況に関するアンケート調査を行った。また、スクリーニング陽性検体を再検査することにより検査精度を調査した。
- ⑧我が国及び近隣諸国における HIV 分子疫学
我が国の HIV 検査相談体制の充実拡充に資する最新の疫学・分子疫学情報を中国における新規流行株を中心に分析した。
- (2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究
- ①ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の活用
当サイトで扱う HIV 検査相談機関情報を全国に拡大した。またサイトの利用状況から受検希望者のニーズを分析した。
- ②STI クリニックにおける HIV 検査相談機会の提供
STI クリニックにおいて HIV 検査相談を提供する場合の障壁を調査するとともに HIV 即日検査導入のためのガイダンスを作成した。
- ③一般若年層の HIV 検査に対する意識調査
大学生を対象として HIV 検査に関する知識・態度・行動を調査し、若年層の受検率を高めるための方策を検討した。
- ④献血者への働きかけ
感染リスクのある献血者に働きかけて HIV 検査相談機会に繋げるための方策の有効性を陽性献血者のデータを基に検討した。
- ⑤歯科受診者に対する検査相談機会の提供
歯科受診が HIV 感染症の早期診断に繋がることを歯科医療従者と歯科医療機関受診者に啓発するための方策とツール作成に取り組んだ。
- ⑥パートナー健診
医療機関におけるパートナー検査勧奨のための支援方策を検討し、学会シンポジウム等で発表・討議した。
- (3) HIV 検査技術の向上に関する研究
- ①HIV 迅速検査試薬の検討と即日検査への応用
国内で利用可能な 2 種類 HIV 迅速検査試薬の比較性能評価を行うとともにそれぞれの検査試薬の追加検査法を検討した。
- ②独自 HIV RNA 定量法の普及とサブタイプ頻度の分析
研究班が開発した HIV-1 RNA 定量法を地方衛生研究所に普及させるとともに感染研マニュアルに記載した。また各サブタイプ頻度の分析から日本人男性における CRF01_AE 及びその組換え体の顕著な増加が示唆された。
- ③HIV 検査技術の研修
HIV 薬剤耐性検査法の開発・改良に取り組むとともに、地方衛生研究所等の HIV-1 検査担当者を対象に薬剤耐性検査法や血清学的診断法などの技術研修会を開催した。

A. 研究目的

本研究班は、HIV 検査相談体制を充実させ、その機会を活用することにより、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・まん延防止を図ることを目的に、(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究、(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究、(3) HIV 検査技術の向上に関する研究の3課題について研究を行った。

B. 研究成果

(1) HIV 検査相談をより受けやすくするための研究

①保健所等における HIV 検査相談に関するアンケート調査

保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、その充実を図るため、全国の保健所等検査相談施設を対象にアンケート調査を実施した。

対象とした保健所及びその支所等の 560 施設のうち回答があったのは 461 施設 (82%) であった。84,404 件の HIV 検査が実施され、220 件 (0.26%) が陽性で、そのうち 206 件 (89%) が保健所に再来所して結果を受け取っており、そのうちの 146 件 (76%) はその後医療機関に受診していることが確認されていた。感染症法に基づく届出は、166 件 (76%) が自施設から行われていた。即日検査は 310 施設 (67%)、夜間検査は 162 施設 (35%)、土日検査が 67 施設 (15%) といずれも昨年よりやや増加していた。一部地域で東北大地震の影響による検査相談事業の一時中止を余儀なくされた施設があった。

保健所以外の特設検査相談施設では、対象とした 19 施設中 18 施設から回答が得られた。検査件数は 26,207 件で陽性件数は 167 (0.64%) であった。このうち結果が本人に伝えられたのは 160 件 (96%)、その後医療機関に受診したことを確認できた件数は 137 件 (82%) であった。

検査結果の誤通知の報告が 3 件あった。一例は HIV 検査において誤って HBs 抗原の検査キットを使用したもので、他の 2 例は B 型肝炎検査と梅毒検査の結果報告における誤通知であった。誤通知防止のため、システム全体の見直しとともに、一人一人のより注意深い対応が求められる。(分担研究報告「HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査(H23年)」今井光信、他)

②各地域における HIV 検査相談体制の現状と課題

北海道における 2011 年の新規 HIV 感染者・エイズ患者は 29 名で 2010 年の 21 名から 8 名増加した。そのうちエイズ患者は 10 名で 2010 年に比べ倍増した。感染経路別では同性間性的接触が 19 名 (66%) で、年齢構成別では 30 歳代が多く 12 名 (41%) であった。北海道立保健所での年間受検者数は 2008 年をピークとしてその後減少傾向にあったが、2011 年は 832 名と前年比 9% 増であった。2011 年に道立保健所の無料匿名検査で陽性が判明したのは 1 名であった。(分担研究報告「北海道における HIV 感染の現況と検査体制」長野秀樹、他)

東京都における 2011 年の HIV 検査件数は 13,142 件と前年より 2.2% 増加した。本年 3 月の東日本大震災の発生により検査数が一時的に減少したが、その影響は 1 年以内で収束しており、新型インフルエンザによる影響が 2 年に及んだのに比べると短かった。(分担研究報告「東京都の HIV 検査体制と 2011 年検査結果の解析」貞升健志、他)

2011 年に大阪府内の保健所等公的検査機関で HIV 検査を受検した人数は 15,124 名で、2010 年の 14,528 名に比べ若干増加した。6 月、4ヶ所の保健所で即日検査を導入した。その結果、前年の同期に比べて受検者数 2~3 倍増加した。即日検査の導入が検査数の増大に繋がること改めて示された。陽性と診断された 99 人のうち抗原・抗体検査等により感

染初期と診断されたのは6名、BEDアッセイで recent infection と推定されたのは38%で前年の25%に比べ急増した。早期発見が進んでいる可能性がある。繁華街に隣接したSTI関連診療所におけるHIV検査では、369件の検査のうちHIV陽性例は20例(5.4%)あった。医師の検査勧奨により感染が判明した例は8例あり、医師によるHIV検査勧奨の重要性が示唆された。(分担研究報告「大阪府内の公的HIV検査の現状と負保健所における即日検査導入の効果評価、当所におけるHIV陽性検体の解析、STI関連診療所における疫学調査」川畑拓也、他)

福岡県内では、2011年のHIV感染者・患者報告数は59人で、2008年以來の増加傾向が続いている一方、保健所及び民間クリニックでの検査数は減少している。今後、保健所等での検査数を増加させる努力が必要である。(分担研究報告「福岡県におけるHIV検査について」千々和勝己、他)

③東京都南新宿検査・相談室におけるHIV検査相談の動向

東京都南新宿のHIV陽性者数は2007年が134人と開設以來の最高値であったが、その後減少傾向が続いている。南新宿の受検者の最近の特徴は、(1)感染初期の陽性者の増加、(2)初期症状の自覚により来診した受検者の増加、(3)パートナーから感染告知された受検者の増加、(4)陽性判明時のCD4数の上昇、(5)STD陽性率の低下などで、MSM受検者の行動変容が生じていると考えられる。(分担研究報告「南新宿検査・相談室のHIV陽性者減少傾向とMSMの行動変容」小島弘敬、他)

④HIV検査相談の研修ガイドラインの作成と普及

検査相談の質を向上させるため、相談担当者の人材育成を目的とした研修ガイドラインの策定と各地域での研修の質を確保するため講師養成を進めている。本年度は、ガイドラインの教材を基に研修を進める講師用実施マ

ニュアルを完成させ、それを基に講師養成を実施するとともに、地元での研修のあり方を検討した。また、研修ガイドラインの内容の理解促進、広報、研修時の活用資料のため、基本編・実践基礎編のダイジェスト版を作成した。(分担研究報告「検査相談研修ガイドラインの作成と普及についてガイドラインの検証と講師用実施マニュアルの作成について」矢永由里子、他)

⑤民間クリニックにおける即日HIV検査

HIV検査希望者にとって利便性が高い検査相談体制の一つである「即日検査」について、民間クリニックへの導入支援を行うとともに、実施施設における検査数・陽性数等の動向を調査した。本年度は4ヶ所の新規導入があり、実施施設は計32ヶ所となった。総検査数は18,267件で、前年比5%増であったが、最も件数が多かった2008年と比較すると18%減であった。陽性数は89件(陽性率0.49%)で、前年の108件(陽性率0.62%)より低下した。陽性例89例中87例(98%)が確認検査結果を受け取りに来ており、このうちの91%はその後の経過もフォローされていた。民間クリニックは有料であるにも関わらず、医療機関という安心感や場所・受付時間帯の利便性等から、多くの検査希望者が即日検査を受検している。また、STIクリニックは他の性感染症の罹患者が多く来院することから、HIVの早期発見・早期治療に繋げるには、民間クリニックでの即日検査の実施は非常に効果的であると思われる。(分担研究報告「民間クリニックへのHIV即日検査の導入支援および実施状況解析」佐野貴子、他)

⑥HIV自己検査キットの検討

HIV自己検査キットは本邦未承認であるが、インターネットを介して販売されている。本年度は唾液・尿を検体とする自己検査キットを試買し、流通状況、品質、信頼性などを調査した。このようなHIV自己検査キットを扱うウェブサイト8ヶ所から容易にキットが購

入ることができた。キットの信頼性は低く、使用法や判定法の説明も不足していた。また、カウンセリングの提供も準備されていないため、現時点では自己検査キットの利用は推奨できない。(分担研究報告「インターネットで入手できるだ液と尿を献体とする HIV 自己検査キットの問題点」木村和子、他)

⑦HIV 郵送検査の実態と検査精度に関する調査

インターネット等で利用可能な HIV 郵送検査の現状を把握するため、郵送検査会社 9 社に対し取扱状況や検査実施状況に関するアンケート調査を行った。またスクリーニング陽性検体の再検査を行うことにより、郵送検査の検査精度調査を行った。年間検査数の合計は 60,609 件(前年比 11%増)で、スクリーニング検査陽性数は 209 例(前年比 6.4%減)であった。HIV 検査の受検費用は 2,625～7,950 円、検査にかかる日数は 1～14 日であった。検査検体は全血を濾紙や採血管で保存したものを用いており、PA 法、イムノクロマト法、CLEIA 法、EIA 法の臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて E-mail やネットでの通知が選択できる会社が多かった。検査結果が陽性だった場合、ほとんどの検査会社で病院または保健所での検査を勧めていた。郵送検査におけるスクリーニング検査陽性検体 16 例を PA 法と WB 法で再検査した結果、陽性 12 例、陰性 3 例、判定保留 1 例であった。2007 年 10 月以来の結果を合わせると、郵送検査の陽性的中率は 85%であった。HIV 郵送検査は我が国の自発検査において大きな部分を占めており、今後も実態調査と検査精度調査を継続することが重要であると考えられる。(分担研究報告「HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査(2011 年)」須藤弘二、他)

⑧我が国及び近隣諸国における HIV 分子疫学

我が国の HIV 検査体制・検査相談に資する

研究の一環として、アジア地域の中でもとりわけ注目される中国における流行の新規動向に関して、最新情報の収集とその分析、また分子疫学的な視点から分析を進めた。中国における重要な問題点は、アジアの様々な地域において、特定リスク集団にはじまった流行が異性間性感染のルートを介して急速に一般集団へと波及しはじめていることである。とりわけ劇的な動きが見られるのが、中国内陸部に起こった不法買血によるプラズマ供血経験者間の感染爆発に続いて、中国内陸部を中心とした様々な地域で、異性間感染により一般集団へ急速に感染拡大していることである。分子疫学的な解析の結果、この流行は、タイの注射薬物乱用者に始まった、パンデミックサブタイプ B 株の地域ヴァリエントであるサブタイプ B' 株のサブクラスター(B' FPD/CN*と命名)によって引き起こされていることが分かった。(分担研究報告「我が国および近隣諸国における HIV 分子疫学に対応する検査相談に関する研究 HIV 検査相談体制の充実拡充に資する最新の疫学・分子疫学情報の提供とその分析(中国における HIV 流行の新規動向に関して)」武部豊)

(2) HIV 検査相談に繋げるための働きかけに関する研究

①ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の活用

保健所等 HIV 検査機関における HIV 検査情報の提供や HIV 検査に関する知識の普及を目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」の管理・運営を行った。本年度はこれまで未掲載であった自治体 20 県の保健所等検査情報の掲載を完了した。また、本サイトによる HIV 検査情報提供の効果を調査するため、PC 版及び携帯電話版のページアクセス数を解析した。PC 版サイトの 2011 年の年間アクセス数は 62 万件と、前年比 2%増と微増したが、サイト開設以来最もアクセス数の多かった 2008 年と比較すると 28%減であった。PC

版サイトのアクセス数のうち約 23%はスマートフォンからのアクセスと推定された。携帯版サイトは 2011 年の年間アクセス数は 35 万件であり、前年比 26%減であった。月別アクセス数をみると 3 月以降低迷が続いていることから、東日本大震災の影響があったと思われる。今後、スマートフォンの普及はさらに進むと予想され、若年層の所有率が高いことから、より利用しやすいスマートフォン版サイトを作成する必要があると思われる。

(分担研究報告「ホームページ「HIV 検査・相談マップ」による HIV 検査相談機関の情報提供およびサイト利用状況解析」佐野貴子、他)

②STI クリニックにおける HIV 検査相談機会の提供

民間クリニックにおける HIV 検査相談では、既存のサービスが提供できなかった場所や時間帯での検査相談の提供が可能のほか、性感染症の合併等を含む感染リスクのある個人や集団への検査相談の提供が可能である。愛知県で STI 診療を扱う民間クリニック 6 施設に対し、HIV 検査相談実施状況及び提供する上での障壁について調査をした。障壁として、(1)営利目的と取られる可能性 (2)陽性が出た場合の風評などの意見があがった。民間クリニックの実情に応じた、HIV 即日検査の導入実施を支援するガイダンス「開業医だからこそできる HIV 即日検査」を開発し制作した。(分担研究報告「民間クリニックにおける HIV 検査相談機会を充実させるための研究」井戸田一朗、他)

③一般若年層の HIV 検査に対する意識調査

HIV 検査の受検率が極めて低い一般若年層における HIV 検査への知識・態度・行動(KAP)についての実態を把握し、HIV 検査相談体制の充実および HIV 検査の受検率の向上に寄与する基礎資料を得ることを目的に、北海道の一大学の学生 384 人を対象として、無記名マークシート式質問票を用いて調査を行った。

有効回答者は 342 人であった。受検経験者は 3 人(0.9%)であったが、全体の約 1/4 が HIV 検査を今後受けたいと回答した。検査を受けたい理由としてもっとも多かったのは、「健康チェックの一環として」(63.3%)であった。検査機会としては、「病院・クリニックを受診した時」に半数以上が受検したいと回答した。アンケート調査の結果から、若者のニーズや生活パターンを考慮し、より利便性の高い場所や時間帯において検査の機会を提供することが、受検率を上げ、感染予防につなげるために重要であると考えられた。(分担研究報告「HIV 検査に関する知識・態度・行動に関する研究—大学生を対象として—」玉城英彦、他)

④献血者への働きかけ

日本赤十字社では 2008 年に感染症検査の精度および感度の向上のために、血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法へ、また HBV、HCV および HIV のミニプール核酸増幅検査については、HIV-1 に加えて HIV-2 も検出可能とするとともに精度・感度を向上させた試薬を導入している。献血者 10 万人当りの HIV 陽性率については、2008 年の 2.107 (107 件)をピークに 2010 年は 1.617 (86 件)、2011 年は 1.695 (89 件)の減少傾向となった。地域ブロック別でみると、東京ブロック(2.017)及び大阪ブロック(2.634)は依然として高い陽性率であったが、愛知ブロックは前年の 0.501 から 0.874 に、福岡ブロックも前年の 1.298 から 1.856 に増加した。都道府県別では、大阪府の 4.053 と東京都の 3.089 が断然高かった。平成 23 年 4 月に HIV 等の感染リスクに関連した問診事項として、性的接触の対象に「新たな異性」を含めるなど問診票改定がなされたことから該当者数が急増した。(分担研究報告「献血者への働きかけにより感染リスク行動のある献血者を HIV 検査相談機会に繋げるための研究(平成 23 年度)」日野学、他)

⑤歯科受診者に対する検査相談機会の提供
HIV 感染では様々なステージで口腔に症状が出現する。その症状は免疫不全を反映したものであり、高齢者あるいは免疫抑制療法を受けている場合を除くと、青年・壮年では通常は発現しない。本年度は、歯科医療従事者が、歯科受診する患者の口腔粘膜の観察を通じて、免疫の異常の兆候を早期に感知し、検査・相談機関への紹介に至るための環境を開発するため、ポスターとその運用テキストを作製し、広島県歯科医師会の会員等に配布して、医療機関との連携を強化した。(分担研究報告「歯科受診者に対する検査相談機会の検討」前田憲昭、他)

⑥パートナー健診

パートナー健診(検査等健康管理への働きかけ)は HIV 感染の早期発見に寄与すると考えられる。HIV 感染症診療の場および公設 HIV 検査・相談所における HIV 検査陽性者および患者を発端としたパートナー健診のわが国における意義と課題について検討を行った。既にパートナーへの検査勧奨が進んでいる HIV 診療の場においては、患者や医療者がより正確な情報や支援がえられるためのツールが必要であると思われた。日本エイズ学会等における討議では、パートナー健診において、患者への配慮や十分なサポート体制の必要性、一定の方向を提示する必要性などの意見が交わされた。(分担研究報告「パートナー健診の検討」中瀬克己、他)

(3) HIV 検査技術の向上に関する研究

①HIV 迅速検査試薬の検討と即日検査への応用

HIV 迅速検査試薬は、その簡便性から医療機関において緊急検査等で広く使用されており、また、保健所等検査機関や民間クリニックにおいても、即日検査の検査試薬として多く用いられている。今回、国内で使用可能な 2 試薬(ダイナスクリーン・HIV-1/2、エスプライン HIV Ag/Ab)について性能の再検討を

行うとともに、迅速検査陽性例における偽陽性の多くを除外可能とする追加検査試薬の検討を行った。感度はダイナスクリーン、エスプラインともに 100%、特異性は、ダイナスクリーンは 99.7%、エスプラインは 99.6~100%となり、臨床応用に十分な精度を有していることが確認できた。2001 年から 2003 年に行ったダイナスクリーンの偽陽性率の検討では、血漿・血清検体では 1.0~1.3%、全血検体では 0.6%とであったが、今回の検討では 0~0.3%と低い結果であった。迅速検査試薬及び追加検査試薬の感染初期検出感度を比較したところ、バイダス DUO II がもっとも早く、次にエスプライン、ジェネディア PA、ダイナスクリーンの順であった。今回の結果から、ダイナスクリーンを使用した場合の追加検査試薬としてジェネディア PA、バイダス DUO II 及びエスプラインが、エスプラインの場合はバイダス DUO II が使用可能と思われた。

(分担研究報告「HIV 迅速検査試薬の検討および即日検査への応用」佐野貴子、他)

②独自 HIV RNA 定量法の普及とサブタイプ頻度の分析

血中 HIV-1 RNA 測定は保健所等の無料匿名検査での確認検査においても重要な検査の一つである。確認検査の多くは地方衛生研究所で行われているが、HIV-1RNA 測定キットがリアルタイム PCR を原理とするコバス TaqMan 法へ切り替わったことに伴い、高価な専用機器の購入が必要になり、全国の地方衛生研究所での実施が困難になった。そこで、本研究班では汎用リアルタイム装置を用いた in house の HIV-1RNA 測定法(以下、KK-TaqMan)を開発し、全国地方衛生研究所への技術移管を進めている。本年度は千葉県衛生研究所において導入検討を行い、横須賀市健康安全科学センター、相模原市衛生試験所については技術研修を行った。栃木県保健環境センター、佐賀県衛生薬業センター、名古屋市衛生研究所、広島県保健環境センター、新潟県保健環

境科学研究所の5施設には操作マニュアルを配布した。また、「病原体検出マニュアル改定版」にKK-TaqMan法が掲載されることが決まった。

一方、国内で流行するHIV-1サブタイプを調べるため、HIV-1感染者161例についてサブタイプ解析を行った。サブタイプBが135例(83.9%)と最も多く、次いでCRF01_AEが15例(9.3%)であった。6例からはサブタイプBとCRF01_AEの遺伝子が同時に検出された。うち3例は日本男性で、うち2例からサブタイプBとCRF01_AEの組換えウイルスであった。(同性間性行為感染、感染経路不明の日本男性に限ると、CRF01_AE及びその組換えウイルスの検出率は、2007年から2009年の1.4%から2010年から2011年の9.4%に顕著に増加していた。日本人MSMにおけるHIV流行に従来のサブタイプBと異なるサブタイプが新たに侵入した可能性が示唆される。(分担研究報告「汎用リアルタイムPCR装置を用いたHIV-1RNA定量法(KK-TaqMan)の地方衛生研究所への技術支援及びKK-TaqMan増幅領域における変異のモニタリングとサブタイプ解析」近藤真規子、他)

③HIV検査技術の研修

全国の衛生研究所等においてHIV-1検査を担当する技術者を対象に、技術研修会を平成23年9月23日～30日の日程で名古屋医療センター附属看護助産学校の講義室と実習室において開催した。今年度は16施設より16人が受講した。この研修会は全国どこでも同質の薬剤耐性HIV検査が実施可能となるように技術移管をすることを目的としている。講義では国内のHIV診断・研究に取りくむ研究機関より講師を招聘してHIV-1の薬剤耐性検査に関する基礎知識から臨床的意義までを取り上げ、実習では薬剤耐性遺伝子検査と血清学的診断法について取り組んだ。研修会後の事後評価では実習・講義ともに受講者より高い評価を得た(分担研究報告「薬剤耐性変異の

解析法の開発・改良・技術研修に関する研究：薬剤耐性検査の実用化と衛生研究所等への技術移管」杉浦 互、他)

以上の研究成果の他、「保健所等におけるHIV即日検査のガイドライン」を5年ぶりに改訂し、迅速HIV抗原抗体検査キットが新たに利用可能となったことにもなうHIV検査実施プロトコールの変更、疫学データ等の更新、陽性告知に関する加筆などを行った。この改定にあたっては、生島嗣先生、井上洋二先生、大木幸子先生に新たに執筆陣に加わっていただいた。

C. 考察

保健所等における平成23年の検査件数は13.1万件であり、前年と比べてほとんど変わらなかったが、検査件数がピークであった平成20年の17.7万に比べ26%も減少している(平成23年のデータは速報値。以下同じ)。平成21年の新型インフルエンザ流行により生じた国民のHIVへの関心の低下がその後も続いており、さらに東日本大震災の影響もあり、保健所等におけるHIV検査数の減少したまま推移していると考えられる。この間、新規HIV感染者・エイズ患者に占めるエイズ患者数の割合が平成20年の27.7%から平成23年の31.4%へと漸増している。このようにHIV感染の診断が遅れていることの要因の一つが、最近のHIV検査件数の減少にある可能性が高い。今後とも、国及び都道府県等はマスメディア、公的広報、イベントなどを利用し、HIV検査相談の普及啓発活動を強化するとともに、特に感染してからの期間が長い比較的年齢の高い感染者が検査を受けやすい検査環境を整備することが重要である。

HIV検査相談の利便性に関しては、即日検査実施している保健所の比率が平成21年60.8%、平成22年63.2%、平成23年68.2%と増加傾向が認められる。また、夜間あるいは土日検査を実施している保健所の比率も平